

第5章 構想の実現化に向けて

第5章 構想の実現に向けて

「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想は、その名が示すとおり、全市域を余すことなく対象として、抽出された魅力を様々な視点から分析した後、その価値を統合し、亀岡市の発展につなげようとする構想である。この構想では、市域全体を一体的な「小盆地宇宙」と捉え、各地域に固有の自然環境や歴史的・文化的特徴をつなぎ、市全体を回遊式庭園のように結び、市民や来訪者が多様な関わりを持つ仕掛けを作り出すことを目指している。すなわち本構想のテーマは「小盆地宇宙で織りなす、豊かな自然と文化のつながりづくり」である。

本構想の基盤は、亀岡市が豊かな自然環境と都市的利便性を持ちながら人口減少が続くことに対する一つの回答として、住民満足度の向上、定住人口の増加、そしてにぎわい人口の増加を目指す必要を考えたところにある。構想では、「亀岡市全体を庭園・博物館として、市民と共にまちづくり・自然の保全」を目標像に定めた。これらの計画には将来的な「住環境の向上」、「景観の向上」、「コミュニティの交流促進」、「定住促進」、「生物多様性の保全」及び「観光振興」が期待されている。

具体的な構想策定にあたっては、市域を大きく市街化区域が中心となる都市部と市街化調整区域が中心となる農村部に二分し、当初プランが示したそれぞれの視点を持って、空間の分析を行った。分析にあたっては、亀岡市が過去に策定してきた、第4次亀岡市総合計画、亀岡市緑の基本計画、亀岡市都市計画マスタープラン、亀岡市景観計画、保津川かわまちづくり計画等の上位計画を重視した。

本構想では、それぞれが都市部編、農村部編としてその成果が示されている。

都市部では市内の35箇所にある都市公園に、緑地整備事業（ウェルカムガーデン）を加えた対象域全体の緑の分布と維持管理について提案を行った。象徴的な空間として位置付けられた亀岡駅北駅前広場計画については、曾我谷川を隔てて農村部側に計画されている「京都・亀岡保津川公園」との連続性も視野に入れた計画が提案されている。

一方、農村部では流域等の地形と歴史的背景をまず解析し、17の各自治会の関係者にアンケート（表4-1）を行って、地域の特性の抽出を行った。その結果、11の中心となる区域をコア地域とした。亀岡市総合計画において中心的に焦点があてられた地域に加えて、さらにその外側の地域については、猪名川、園部川や安威川という異なる流域ごとに特徴的な文化や生活、生態系が存在することが明らかになった。また、幕末期の支配体制による特徴のある地域性が伝えられており、それが現在の文化にも大きく影響していることが示されると同時に、それぞれのコアの間には交流があり、それらは現在もネットワークによって有効に結び合えることも示している。最も中心的な存在としては「京都・亀岡保津川公園」が位置付けられ、都市部との接点としての機能と同時に、都市公園でありながら亀岡を象徴する豊かな生態系を具現する空間として位置付けた。

以上、亀岡市全域を統合的な一つの「ガーデン・ミュージアム」として位置付けていると同時に、回遊式庭園として訪問する先々にある魅力をネットワーク化していくことを提案したものであり、亀岡市全域がどこに居住しても魅力あるものにするを提案したものである。

この構想を実現化するためには、今後行政面で配慮、熟考すべきことが多数ある。そのためには、既に日本各地で実現化されている新たな活動や成果が参考になるであろう。例えば、都市計画決定された都市公園である「京都・亀岡保津川公園」に関しては、都市公園法の改正によって可能になった、日本各地で行われている都市公園の新たな運営方法は参考になるであろう。都市公園における農業や里山管理の事例、遊水池としての利用の事例など、参考になる事例は数多くある。特に、兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園の事例は参考となる。対象地域に捉われず、その周辺地域も管理の対象地として考

えていく仕組みは、保津川公園においても有効である。

この計画の実現化によって、本公園は本構想の象徴的な存在と位置付けられるようになる。本構想の中核となる場として、アユモドキありきの計画ではなく、アユモドキも生息することができる生態系保全の計画であることが重要であり、隣接する西側の農地も含めた空間の保全とそれに伴う経済的バックアップ、隣接する地域における保津川かわまちづくり計画との整合性のある計画策定とその実施が求められる。

都市部においては、住環境の整備が最大の目標となる。ここに示された提案の実現のためには、従来の考え方に捉われない、真に亀岡市民のためのデザインや手法が考案される必要がある。ウェルカムガーデンは実現可能性のある空地を見出すだけでなく、実効性のある空間の発見を伴うべきであり、そのためには市民の理解を得る努力を求められる。また、隣接する農村部とのつながりを保つ周辺部の整備については、農村部の隣接コア関係者との協議も重要である。農村部においてはスポットガーデンについて同様の発想が求められる。ありきたりの緑の創出ではなく、亀岡に適合した、周辺住民が憩いの場として納得できる空間の設定と創出が求められるであろう。

亀岡市がこの構想を実現するにあたっては、この構想で抽出した様々な魅力を再度理解することが重要である。例えば、「守る」視点からはその対象として、景観、伝統、技術、食、生態系などが挙げられる。景観には桜・ヒガンバナだけでなく雲海や畦畔木、古木や鎮守の森などが、伝統には様々な祭礼が、技術には操船道具、刀鍛冶や醸造が、食には米、京野菜や小豆などが、生態系にはアユモドキ生息空間や清流のホタル、ホトケドジョウ、カスミサンショウウオなどの棲める環境などが挙げられる。これらは「保全」に関する留意事項として挙げられる。一方、都市部も含めて多くの地点においては「創出」に該当する作業も必要であり、これについても熟考が求められる。

本構想の最大の特徴は亀岡市全域を対象としていることである。これは都市部及び農村部の区別なく、どれほど有効なネットワークを構築できるかにかかっていることを意味する。人の交流においては、自動車の移動だけではなく、「歩く」や「自転車に乗る」ことを前提にした陸上のネットワークと、「水」のネットワークも配慮することが求められる。その中では、多種多様なハイキングコースやトレッキングコース、船による移動などの提案が可能である。これらのルートは生態的な意味も含めて回廊として位置付けることもでき、その保全によって価値を高めることができる。ネットワークの構築には、各コア及び都市部の住民が共同して行う、訪問者の多様な目的に対応できるコース設定やサイン計画の提案が重要であろう。また、それぞれの地域の最新のイベント情報を、伝統的な行事のカレンダーと併せて発信することも、地域内の相互の理解を深める意味で有効である。これらの提案はにぎわい人口増加だけを目的とするものではない。

市内にふんだんに存在する魅力を持つ各地域には、その地にいなければ分からない情報を持った方々が必ず存在する。このような方々はボランティアベースでの語り部として存在することが必要不可欠である。彼らの情報を継承する後進の育成も可能になる。小中学校でそれを目指した郷土教育も実施できるであろう。亀岡市には既にいろいろな市民活動が展開されている。アユモドキ保全活動、オープンガーデンかめおか、亀岡の名木めぐり、山野草を守る会、かめおか農業塾、そばうち体験などの活動団体は、各地の魅力を発信することができる団体としてよりいっそう評価される。

以上に述べたことを実現する上では、提案をより実効性高く組み合わせていく仕組み作りが重要になる。豊岡市のコウノトリに見るようにアユモドキによる経済戦略のような戦略の策定も必要であろう。これらの実現にあたっては、各コアにおける協議会とそれらが情報を共有する連絡協議会の設立が有効であろう。そこでは学識経験者としての大学研究者の参画も欠かせない。大学を持つ町である亀岡市は、

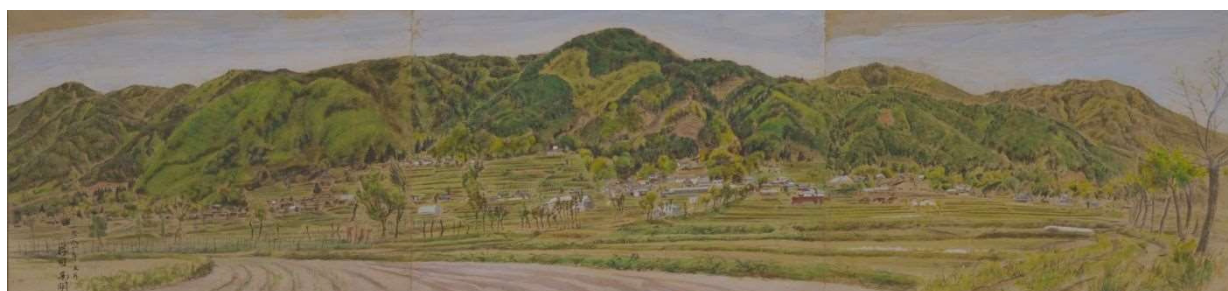
第5章

そのことが容易に実行できる自治体であることを誇りにできる。さらに、市外から様々な経験を有する学識経験者や行政経験者などを加える一方で、市内からの人材を公募によって求め、市民協働によるワークショップや作業部会の設置、諮問機関としての委員会などを設置し、そこから出てくる提案や対応策をPDCAサイクルに則って実行していく仕組み作りが重要である。

生物多様性に関しては環境省の「生物多様性地域連携推進法」では、「多様な主体が有機的に連携すること」、「地域特性を踏まえたものになっていること」、「地域の生活や文化に配慮されていること」や「遺伝的攪乱や地域の生物多様性に負の影響を与えないこと」が重要視される必要を説いている。

本構想の実施においても、このような注意事項は忘れてはならない。すなわち、市内各地域の特徴を十分に理解した上で、行政のみならず複数の主体が協議会などによって連携して考えていく必要がある。

以上のように本構想の実現化にあたっては様々なことを配慮する必要があるが、その根本にあるのはそれぞれの地域を多様な視点から理解し、住民が主体となって互いの理解のもとに活動をし、さらにそれらの輪が空間だけではなく、意識の中で、全市に連環していくつながりづくりであると考えられる。市民をあげた活動に支えられた構想となることを願うものである。



千歳遠望（岩田高明画、昭和56年）

出典：亀岡市文化資料館所蔵

本構想の策定にあたり、以下の方々にご協力いただきました。

助言	福井県立大学	学長	進士 五十八
調査研究・執筆	京都大学大学院地球環境学堂	教授	柴田 昌三
		准教授	深町 加津枝
	京都学園大学バイオ環境学部	教授	森本 幸裕
		准教授	丹羽 英之
		非常勤研究助手	阿野 晃秀

(敬称略)

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想

発行 平成30年3月
亀岡市まちづくり推進部 都市計画課
〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地
電話： (0771) 22-3131 (代表)
URL： <http://www.city.kameoka.kyoto.jp/>